

研 究 成 果 情 報

平成 26 年度

西洋なし「ル レクチェ」の養分吸収特性		
[要約] 西洋なし「ル レクチェ」の養分吸収は、春から夏にかけて多い。吸収された養分は、葉や果実に多く分配され、次いで側枝や主幹への分配が多い。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 環境・施設科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

果樹生産において、施肥の最適化は、生産安定や環境負荷軽減の観点から重要である。適切な資材、施肥時期、施肥方法などの選定を行うためには、植物体の養分吸収特性の把握が重要である。しかし、西洋なし「ル レクチェ」の養分吸収特性に関する報告は少ない。そこで、西洋なし「ル レクチェ」の時季別・器官別の養分吸収特性を明らかにする。

[内容]

- 1 6年生樹では、養分吸収は乾物重の増加と同様に、3月の催芽期から9月にかけて多く、窒素、リン酸、カリウム、カルシウム、マグネシウムの同期間の吸収量は、それぞれ28.3、7.7、33.5、13.7、3.8g/樹である（図）。また、カリウムの増加率は、他の成分に比べ高い。
- 2 吸収された養分は、主に葉や果実に多く分配され、次いで側枝や主幹への分配が多い。また、地下部への分配は比較的少ない。
- 3 主幹および地下部の窒素は、6月までは増加せず、夏から秋にかけて増加する。
- 4 秋に、葉の窒素は他の部位に再転流されるが、その他の養分はほとんど再転流されな
いまま落葉していると推察される。

[導入効果]

西洋なし「ル レクチェ」の施肥計画や施肥試験研究等での活用が期待される。

[導入対象]

西洋なし「ル レクチェ」生産者および関係機関

[留意点]

- 1 本試験は、6年生樹（主幹長約4m）を用いて行ったポット栽培（1樹/ポット、容積約48L）での試験結果である。
- 2 施肥はかん水同時施肥とし、3～12月の期間に、園試処方に準じた培養液（1/5～1/10単位）を、排液率30%を目標に供給した。

[具体的データ]

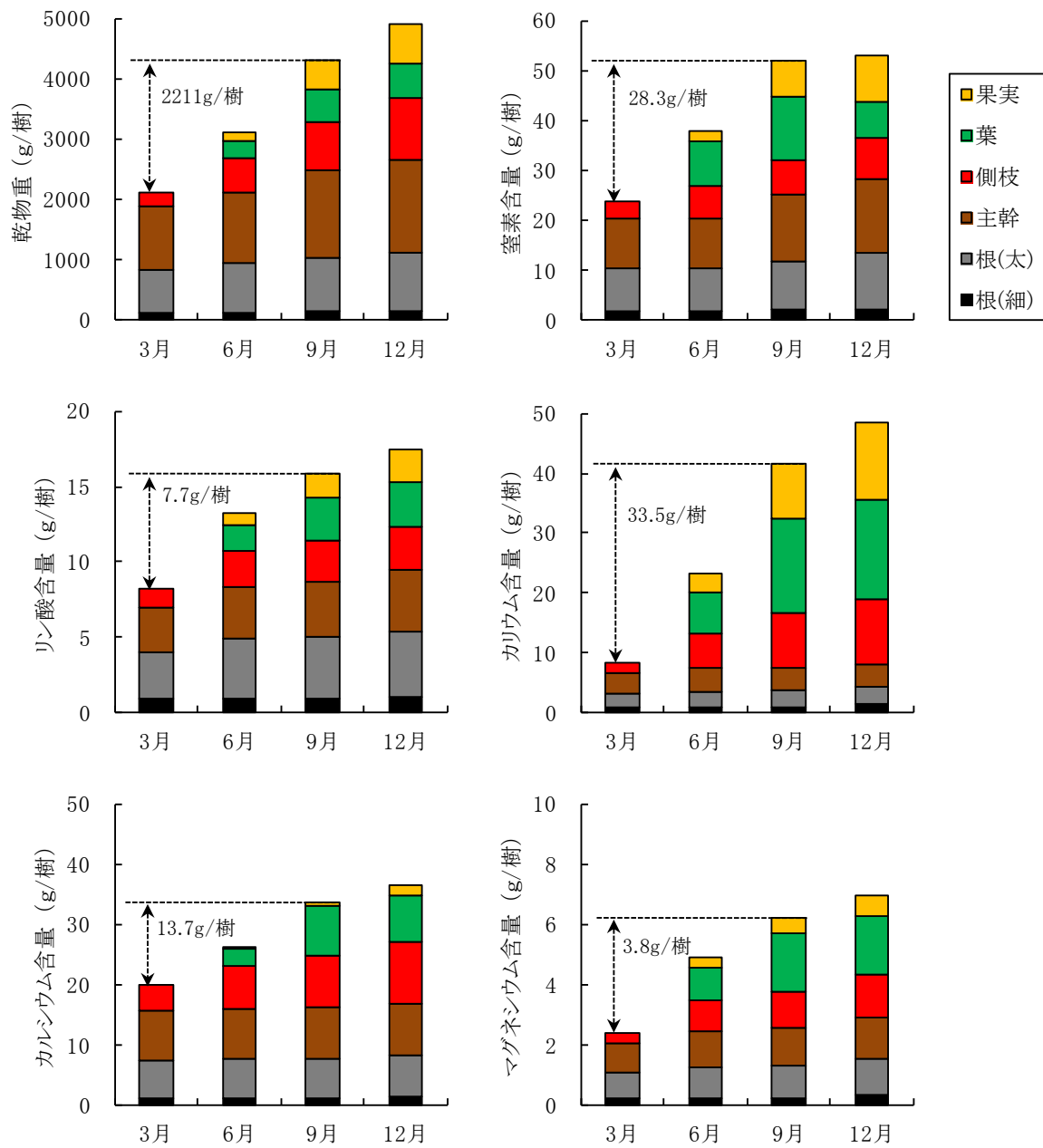


図 西洋なし「レ レクチェ」(6年生樹)の樹体各部の乾物重および無機成分含量の経時変化

*12月の果実は収穫時(10月24日)の値であり、12月の葉は落葉を含む。図中の数値は3月~9月の増加量。

[その他]

研究課題名:1 園芸における総合的な環境負荷軽減技術の開発

2 園芸における気象変動に対応した病害虫管理技術及び省資源生産技術の開発

予算区分:県単経常

研究期間:1 平成21~23年度

2 平成24~25年度

発表論文等:平成26年度園芸学会北陸支部